HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	若年者における失業体験が精神的健康に及ぼす影響 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	鬼頭, 愛子
Citation	北海道大学. 博士(医学) 甲第12098号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/61778
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Note	配架番号：2202
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Aiko_Kito_abstract.pdf (論文内容の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称　博士（医　学）　氏名　鬼　頭　愛　子

学 位 論 文 題 名

若年者における失業体験が精神的健康に及ぼす影響

（An exploration of the effects of unemployment experiences on the mental health of young people)

背景と目的

労働は，個人の健康と成長にとって重要な役割を持つ活動である。労働は，個人に対して，経済的安定だけでなく，意義のある生活を提供してくれる。しかし，新自由主義や市場原理主義の台頭，経済不況などにより，労働者をとりまく近年の環境は大きく変化し，様々な問題が生じている。特に失業が世界的にも社会問題となっており，若年者にとっては社会的排除の問題とも重なり，深刻化している。　失業は，精神的健康に悪い影響を及ぼすことが，多くの先行研究で報告されている。しかし，若年者を対象として，失業が精神的健康にあたえる影響について検討した研究は十分ではない。そこで，本研究では，若年者における失業体験が精神的健康に及ぼす影響について検討することを目的とした。まず，研究１（第１章）で若年失業者を対象として，失業が彼らの精神的健康に与える影響について検討した先行研究の系統的レビューを行い，これまでの研究動向と今後の展望について考察した。そして，研究２（第２，３章）では，日本の若年失業者を対象として，失業体験が精神的健康に与える影響について質的研究手法を用いて検討した。

研究１

【目的】若年者における失業が精神的健康に与える影響について検討した文献の系統的レビューを行い，これまでの研究動向について体系的に整理することを目的とした。

【対象と方法】Preferred Reporting Items for Systematic Reviews and Meta- Analyses (PRISMA) statement の手順に従い，系統的レビューを実施した。1995 年から 2015 年までの過去 20 年間に査読付きの学術雑誌に掲載された文献で，英語もしくは日本語で書かれた文献を対象とした。また，18 歳から 34 歳までの失業者を対象としており，アウトカムで精神的健康を評価している文献を対象とした。文献検索は文献データベース（MEDLINE, PsycINFO, Social Sciences Citation Index, 医中誌 Web, CiNii）を用いて実施した。さらに，レビューの対象となった文献が掲載されていた学術雑誌やその対象文献の引用文献リストにある文献についてもマニュアル検索し，選択基準を満たす新たな文献がないかどうかを確認した。

【結果と考察】文献検索の結果，10 件の文献がレビュー対象として抽出された。対象となった研究のうち，7 件が横断研究で，3 件が縦断研究であった。また，量的分析とあわせて質的分析を補助的に実施している研究が 2 件あった。調査対象地域は，すべて欧米諸国であり，日本で実施された研究は抽出されなかった。精神的健康については，自記式の評価尺度により測定されており，

ネガティブな精神症状を量的にとらえられる傾向にあった。若年失業者にとって，失業は精神的健康を低下させる可能性が示唆されたが，横断研究では因果の逆転現象の可能性も考えられた。さらに，若年者における失業と精神的健康の関連は，ソーシャルサポート，経済状況，教育歴，失業率，社会保障制度，性別などの影響を受けることが示唆された。

研究２

【目的】日本の若年失業者における失業体験と精神的健康について探索的な検討を行った。特に，研究２では，①日本の若年失業者は，失業するという体験をどのように語るのか，②近年の日本の社会的文脈のなかで，失業するという体験は精神的健康に対してどのように影響しているのかの 2 点について質的に検討した。

【対象と方法】Ａ市内にある求職者の就職支援を目的とした施設を利用している者のなかから，有意サンプリングによって抽出された 19 歳から 34 歳までの若年失業者 25 名（男性 10 名，女性 15 名）を対象とした。データ収集は，2012 年 10 月から 2013 年 1 月にかけて実施し，各対象者に対し，個別の半構造化インタビューを実施した。半構造化インタビューはすべて予備調査で改訂されたインタビューガイド（テーマリスト）を用いて実施した。インタビューのテーマリストは，①学校卒業後から現在にいたるまでの仕事や求職活動の経緯，②求職中の生活と健康について，③求職者に対する支援について，④今後の求職活動について，⑤調査対象者の基本属性で構成された。インタビューはすべてプライバシーが保護される個室で実施し，その内容はすべて IC レコーダーおよび筆記による記録を行った。研究の理論的枠組みとして社会構築主義を採用し，分析方法は，テーマ分析を使用した。

【結果と考察】テーマ分析の結果，調査対象者の語りから，①精神的健康を低下させるストレスからの解放，②就職のためのレディネスを高める休息期間，③新しい仕事に必要なスキルを高める期間，④生活習慣の変化という４つのテーマが抽出された。若年失業者は，仕事に関するストレス，仕事の条件に関するストレス，職場の人間関係に関するストレス，ワークライフバランスに関するストレスについて語っていた。この文脈のなかで，若年失業者は，失業するという体験をストレスからの解放，就職のためのレディネスを高める休息期間，就職に必要なスキルを高める準備期間として経験していた。これらの失業体験は，若年者の精神的健康を改善し，生活習慣の変化をもたらした。ポジティブな生活習慣の変化は，精神的健康を増進させることが期待される一方で，ネガティブな生活習慣の変化は，精神的健康の悪化をまねいていた。本研究のデータはまた有職時の精神的健康の状態が失業時の精神的健康に重要な影響を与えることを示した。つまり，本研究の結果から，精神的健康に対する失業の影響は前職時の精神的健康や失業の見込みに対する感情的反応に依存することが示唆された。本研究の結果から，若年者を取り巻く労働環境が彼らの精神的健康を低下させていること，若年失業者にとって失業体験は就労体験よりも彼らの精神的健康と成長・発達のために有益でありうることが示唆された。

結論

若年者の失業体験は精神的健康に肯定的な影響があるともとらえられるが，失業が個人の精神的健康を守り続けるものではないことが，多くの先行研究において明らかにされている。若年者個人の精神的健康と成長・発達のために，彼らを取り巻く労働環境の抜本的改善とディーセントワークの実現が喫緊の課題であると考えられた。